

日本人の信仰心と石造物

日本人は、神も仏も集団生活の不安をなくし、幸せを約束する。ありがたい絶対者として信じられてきた。

さらに多くの人々は、それらとは別に、自然への崇拜・精霊への信仰をはじめ、いろいろの仕事を守る神への信仰とか、家の竈とか物置部屋・井戸にまで、それぞれについても神霊がいることを受入れて信仰を今も寄せている。

これらの信仰は、昔からの生活の中から生まれ、習わしとなってきたものであり、誰かが発明し、広く伝えようとしたからではない。民間信仰というものは、原始宗教・神社神道と同じで、その人の生活と深く関係している。

そしてまた、この民間信仰も仏教や神道、さらには道教などとも深い関係があって、お互いに影響してきたのであります。この結果、「一つの信仰するもの」が信仰ごとにちがう名前ではあるというわかりにくい関係になり、同じものでもいくつかの形となつて表現されるのが、大きな特色です。

市内の家の庭の中やお墓に祀られているもの以外に、市内には約3800個の石仏があり、その30%が「馬頭観音」、次に、庚申塔、甲子塔、道祖神、蚕神となっています。

このようにたくさんの石造物がのこされているのは、道路を直したり、新しくつくりたりする時や、土地改良事業の時に人々が、新しい場所に祀り直して大切に守ってきたからです。

馬頭観音や道祖神は、生活に使う道路の端や村の境に建てられることが多いので、これらが最初にあった場所を調べると、昔の生活に使った道路をたどることができます。

せきぞうぶつ しんこう あと じだい きろく のこ つく
石造物は、「信仰されるもの」、「後の時代に記録を残すためのもの」などとして造られ
たものであり、そこに人々の強い祈りや願い・思いを感じることができます。言いかえれ
ば「その当時を生きた人々の暮らし」の一部分を伺い知ることができる「文化遺産」で
あります。

しな い せきぞうぶつ だいひょうてき しょうかい
市内にのこっている石造物の代表的なものを紹介します。

ば とうかんのん 馬頭観音

ば とうかんのん
馬頭観音は、いちばんなじみのあるものです。もともとはひどく怒った厳しい顔をして
いますが、あたま うえ ば とうかん も うま あんぜん いの まつ
頭の上に「馬頭冠」を持つことから、馬の安全を祈るものとして祀られたと
いわれており、ぞう かお
像はやさしくおだやかな顔をしています。

ご だんだん か うま し とき うま れい た
その後、段々が変わって、馬が死んだ時に馬の霊をなぐさめるために建てられるように
なりました。ぞう かたち も じ きざ ぞう かたち ふる
像の形のもとの文字を刻むものがあり、像の形をしたものは古いものが
おお
多く、ほとんどが江戸時代のもので、中には、なか みち きざ
「道しるべ」を刻んだものもあります。

どう そ じん 道祖神

ちゅうごく ふる しんこう りょうこう しゅ ご しん どう そ じん ちょうせん みんかんしんこう
中国の古い信仰に、旅行の守護神として「道祖神」があり、朝鮮の民間信仰に
るい じ しんこう つた はってん
も類似したものがあったといえます。これらの信仰が日本に伝わって発展したも
のだとされています。あくま しんにゅう ふせ かみさま むらざかい た
悪魔の侵入を防ぐ神様として、村境に建てられることが
おお
多いのですが、「やくよ かみ りゅうこうびょう かみ さくもつ かみ みち かみ りょうこう
厄除けの神」、「流行病の神」、「作物の神」、「道の神」、「旅行の
かみ えんむす かみ こ さず かみ ふう ふ わ ごう かみ だんじょ
神」、「縁結びの神」、「子授けの神」などがあります。さらに「夫婦和合の神」として「男女
の像」を彫った「双体道祖神」もある。

Dosojin (Traveler's guardian deities)

Dosojin are deities that defend against evil spirits, protecting travelers and maintaining safety on trips. They are set up at roadside and crossroads. They are shaped out of stone, usually with the characters for "dosojin" carved into the stone and the figures of both sexes carved in relief. Originally, they were used to mark village boundaries and were apparently taken to be deities that protected villages

against the invasion of evil spirits. Now they are regarded as deities that arrange to make a couple or else as gentle deities with an affinity for children.

じぞう ぼさつ 地蔵菩薩

釈迦^{しゃ か}が亡^なくなった後^{あと}、弥勒菩薩^{みろく ぼさつ}があらわれるまで、世界^{せ かい}の生き物^{い もの}すべてを救^{すく}うとされています。日本では高さ1メートルくらいの地蔵^{じ ぞう}の石像^{せきぞう}が、村境^{むらざかい}の神様^{かみさま}として町^{まち}や村^{むら}の境^{さかい}に建てられています。子供^{こ ども}が死ぬ^しとその魂^{たましい}を救^{すく}うといわれ、子供^{こ ども}の交通事故^{こうつう じ こ}がおきた場所^ばに建てられることもあります。今^{いま}も多く^{おお}の人に愛^{あい}され、親^{した}しみをこめて「お地蔵^{じ ぞう}さん」と呼^よばれます。

Jizo-bosatsu (Guardian deity)

Jizo-bosatsu is thought to relieve all living things in the world, from when Buddha has died until the Benevolent Bodhisattva appears. In Japan, stone jizo statues, usually about one meter high, are erected as boundary gods at the boundaries of towns and villages and at crossroads. Jizo are said to rescue the spirits of children when they die and have even been erected at the actual spot where traffic accidents with children have occurred. Most people today feel a closeness to jizo, fondly calling them "o-jizo-san(dear jizo)".